

天然記念物「釧路湿原」

1924年に釧路湿原で10羽のタンチョウが発見されて以来、動物の種と湿原の両方を保護するために多くの努力がはらわれてきました。1935年には、釧路湿原全体のうち、2,700ヘクタールが国の天然記念物に指定されました。その後、1952年に、保護区域は2,749ヘクタールに拡大され、同年には釧路のタンチョウ及びその繁殖地が特別天然記念物として指定されました。保護された湿原は1967年に5,012ヘクタールにまで拡大され、1980年には湿地の一部がラムサール登録湿地と指定され、国際的に重要な湿地として認識されました。最後に、1987年には28,788ヘクタールの広大な地域が釧路湿原国立公園と指定されました。

湿地のはたらき

釧路湿原は自然記念物として評価されているだけでなく、多くの重要なはたらきを持っています。湿原の主なはたらきは以下の通りです。

保水と洪水対策

湿原はスポンジのような保水作用を持ち、洪水を防ぐ働きをします。湿原は「水がないダム」とも呼ばれており、その土壌には多くの水が蓄えられていますが、その多くは植物内に蓄えられているか、地面に隠されています。

温暖化ガスの吸収

大きな湿原で生育する植物は、多くの二酸化炭素を吸収します。植物が枯れ、腐敗し、分解され土壌の一部になっても、その中の二酸化炭素は蓄えられたままとなります。

浄水作用

湿原は自然のフィルターとして働き、河川や他の源から湿原に流入する水に含まれるリンや窒素などの汚れや栄養素を取り除きます。

気候変動の緩和と安定

湿原は水を貯め込んでいます。水は温まりにくく冷めにくいという性質があることから、こうした湿原は地域の気候変動を和らげる働きをします。

生物多様性の保全

湿原の自然環境は多様性に富んでいます。スゲ・ヨシ、およびミズゴケの泥炭、湖、池、川には、多様な動植物に生息地を提供しています。

レクリエーションの場の提供

素晴らしい自然を体験させてくれる湿原は、人々に日常生活のストレスから逃れる機会を与えてくれます。この湿地では、多くの人が、キャンプ、カヌー、バードウォッチング、花の観察などの野外活動を楽しんでいます。